

平成 22 年度第 2 回運営推進会議議事録

日時	平成 22 年 7 月 2 日
場所	グループホーム優瑠里
参加者名	亀井、河野（老人会）、兵頭（保健センター）、福島（民生委員）、樋田（近隣住民）、保内第二分署職員、岡本（施設長）、浅野（管理者）、入居者全員、共用サービス利用者 1 名
<p>1. 避難訓練</p> <p>夜間帯、1 階居室から出火を想定し、発見・通報・消化・GH 駐車場までの避難 緊急連絡網による職員の集合、避難時の介助・協力 近隣住民、運営推進委員(地域の方々)による避難協力</p> <p>2. 消防署職員による避難訓練の講評、注意。</p> <p>前回、11 月に実施した（夜間帯を想定した）訓練より、格段に良かった。 避難完了までの目標時間が 10 分 実際の時間が 12 分 55 分 避難場所は、風の状況等も考える必要はあるが、敷地内で建物から 1 番離れた場所とする。</p> <p>1 階 火から利用者を離す事が 1 番大事。 火元の居室の戸を閉める事により、煙を止め、火の廻る時間が遅くなる。 訓練であった為、履物を履き替えたが、そのまま出た方が良い。 リビングの戸を閉めていなかった。避難経路を決めたら、それ以外は閉める。</p> <p>2 階 自力歩行にて階段を降りられない人は、おんぶ、若しくは 2 人で抱えての避難 おんぶ紐の利用が良かった。安全上も問題はないと思われる。 2 人で抱えて階段を降りる時は、力のある人が頭側を抱えるのが一般的である。 全員をリビングに揃える必要はない。 できる限り早く降りられる様に、バランスを考える。</p> <p>3. 入居者、運営推進委員、消防署職員との意見交換。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 階入居者より <p>リビング内で一旦留まったのは何故か？ 玄関反対側のウッドデッキに、車椅子でも昇降できる階段を設置した。 車椅子の方や足元の不安定な方が、一人で段差を越えるのは危険な為、人が揃うまで待って頂いた。</p>	

- 運営推進委員より

入居者さんの介助が出来るか不安であったが、職員の方の指示により、外に出てこられる入居者さんを避難場所へ誘導した。何をするか指示があると動きやすい。

果たして、10分で煙から逃げる事ができるか心配である。

- GH裏手の住民の方より

本日、避難訓練があると事前の連絡があった為、注意しており、警報のベルの音が聞こえたが、実際の火災時には、戸を閉め切っていたら、ベルが聞こえない事や、何の音か判らない事があるのではないかと感じた。

- 職員より

今回、火災発生時、消防署通報後に職員緊急連絡網を廻し、職員の招集を行った。

一番近い職員到着までに、火災発生時より6分かかっており、火災報知器のベルを聞き駆け付けて下さった御近所の方の到着が遥かに早かった。近隣の力の大切さを感じた。今後とも御協力をお願いします。

- 消防より

声を掛けることが大切

職員の協力も大切であるが、実際の火災となると近隣の協力が大きな力となります。前回の避難訓練より、皆が理解できていた。

毎月の避難訓練等の効果が出ています。